

自治会長研修視察報告

立川市自治会連合会のご意見交換
玉川地区自治会連絡協議会
会長 宮内 一男

今年も自治会長の研修視察が7月8日(火)に実施されました。各地区の自治会長総勢136名が参加致しました。早朝霧雨模様の中、小林市長に激励のご挨拶を頂くと共に多数の職員の方の見送りを受け、本日の目的地である立川市に向けて出発致しました。途中中央高速に乗った頃には小雨も止み車窓から木々の緑を眺めながら立川市の研修会場につきました。

早速意見交換会に入る。立川市は人口17万6,326人(厚木市22万5,213人)、所帯数8万1,665(厚木市9万3,056)であり自治会数も176(厚木市218)と全般に厚木市と比較すると若干小さいが規模的には大体同レベルであると思う。

立川市自治会連合会の秋島会長から立川市における状況説明等の中で、自治会加入率を含めごみ対策等々と共通な問題を抱えている事を認識した。尚、立川市自治会連合会が会長の他に副会長が4人おり、それぞれの副会長が自治会加入促進委員長の他ごみ対策

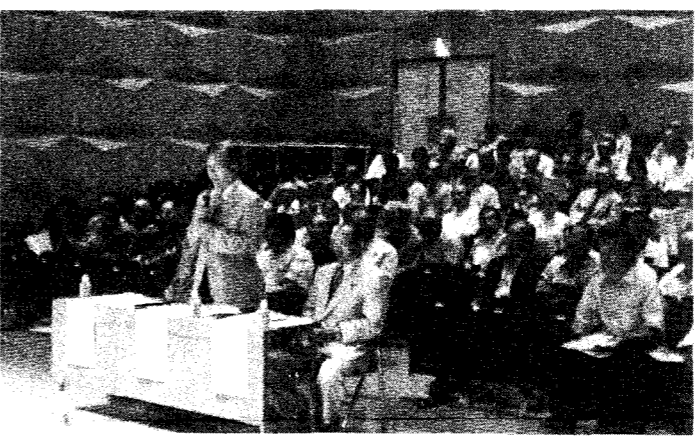
の委員長や防災関係等、個別に役割を持って活動している処に心を引かれた。

意見交換の質疑では当方の11項目の質問につき回答頂きましたが、特に注目された内容について紹介致します。

先ず自治会加入率については51.4%と自治会規模の割にはかなり低く(厚木は71.4%)未加入の単位自治会(48自治会)もある由。また全体的に所帯数は増加しているにも拘らず自治会加入のUPには結びついていない。

これらの対策として加入促進のチラシ配布やポスティング作業の実施(特に転入者、未加入所帯を対象に)、市や地域のイベントについてはのぼりの作成や設置、そして立川駅前でのインターネットに記事の掲載並びに連合会のホームページ上でのPR等多様な活動を行っている。また昭島市と年一回の意見交換会を実施しており、前述の様な内容につき情報交換を行い相互間のレベルの向上を図っている。

次にごみ対策については不燃・可燃ごみや粗大ごみの回収方法につき、回収日等を含めて厚木市とは大差無いものと思う。但し資源ごみの回収については4種類(缶・透明瓶・茶色瓶・その他瓶)を1組としてのリサイクルポ



立川市との意見交換会

ストの設置(市内2,327箇所)に設置)や可燃ごみ焼却灰から作られたエコセメントの活用(テトラポット、歩道や側溝等に利用)を行っている。(平成18年度の実績は4,800ト) これらのごみ分別回収に伴う資源化率は33.3%で、この数値は現状の厚木市の約2倍強であり大いに参考にすべきと思う。またリサイクルポストの設置については定期的な事と感ずると共に興味を引かれた。

また防災組織等について特に感じた事は消防団の他に自治会で自衛消防隊(市民消防隊)と呼ばれる組織を持つており、現在11自治会(一自治会15人程で編成)で活動し、C級可搬式消防ポンプを貸与され**自分達の町は自分で守る!**をスローガンに地域で発生する火災の初期消火等に貢献している。また合同訓練により相互間の連携を密にして技術の向上を図りながら地域防災のリーダーとして活躍している。

更に環境関係では違法看板の撤去等につき生活安全確保会議を実施して各自自治会で撤去活動推進員を設けて撤去に取り組んでいる。ここ1、2年においては成果が現れ街の美観が保たれて来ている状態となっているとの事。この他安心安全等についても防犯パトロールの実施や地域安全マップの作成などの説明を聞き、昼過ぎに意見交換会を終了した。

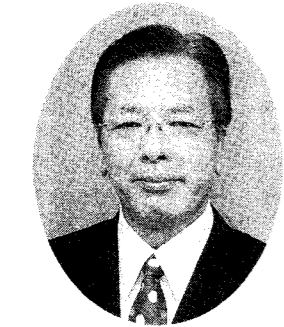
最後に自治会長の皆様、有難うございました。各自自治会の益々の発展と自治会の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

目 標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的な活動から
- ◎行政と協働で築く豊かな文化

発行 厚木市自治会連絡協議会
編集 自治会連絡協議会広報部
電話 046-225-2101

自治会 第54号 あつぎ



厚木市自治会連絡協議会 中野 会長

皆様お元気で活躍のことと拝察申し上げます。常日頃、自治会活動を通して地域の安心安全の実現のために献身的なご努力を賜りますこと深く感謝申し上げます。 私たちの愛するふるさと厚木が真に皆様が望んでおられる地域となつて、そこに住む人々が互いに二つの愛「助け愛、励まし愛、支え愛」と絆のあるコミュニティが少しずつ形となつて育っていることを感じています。 私たち自治連は、今年、21年度からスタートする厚木市新総合計画や都市マスタープラン並びに自治基本条例の策定に協力しています。更に当市では、WHOの認証を目指

地域の安心安全のために 実現しようWHO認証のセーフコミュニティ

厚木市自治会連絡協議会 会長 中野 正義

すセーフコミュニティを実現するために、より安心安全な予防効果を探し求めて、「厚木市セーフコミュニティ推進協議会」が設立されました。個人や団体が個々に取組んできた安心安全な街づくりの情報を共有し、その課題の一つ一つを科学的に分析して、原因を究明し、対応策を着実に実施していくことにより事件・事故、病気などを未然に防止することが出来ます。その結果、それぞれに認知件数は大幅に減少させることができると信じています。簡単なことではありませんが皆様と共に力を合わせて精力的に取り組めば、私たちは必ず「この夢を、願いを形にする」ことができるものと確信しています。

また、私たちは循環型社会の構築を更に推進するために、市が進めている新システムに協力し、より充実した収集体制のもと、ごみの減量化と資源化率の大幅な向上を目指して参ります。実現に向かって相川、玉川、森の里のモデル地区の皆様のご協力を頂き、来年10月の全市一斉への取り組みが円滑に移行できますようお力添えを賜りたいと思います。

元氣なあつぎをつくるため、沢山の皆様のご協力を頂いておりますことを

感謝いたします。

来々年4月1日には睦合西公民館の竣工に伴い睦合西地区自治会連絡協議会が設立される運びです。睦合南地区からの円滑な移行を期待するものであります。 今年、厚木市と米国ニューブリテン市が友好都市締結25周年を迎えました。また、厚木市文化会館が開館35周年、厚木商工会議所も創立60周年を迎えるなどいろいろな節目の時を通じて、新たな活力が芽生えることを期待いたします。これからは市民と行政との協働による街づくりを推進し、より住みやすい地域社会の構築と生き生きとしたふるさと厚木の未来に向かって一歩一歩堅実な歩みを進めますよう皆様とともに力を合わせて努力していきたいと思ひます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

再生を目指して

愛名自治会(南毛利地区)

副会長 菊地 敏夫

愛名自治会は、愛名第一・愛名第二・愛名第三自治会の連合体構成で活動しています。

愛名は、西側に高松山を中心とした愛名緑地の里山があり、南側は毛利台の住宅街、東側から北側にかけては恩曾川に沿って田畑が広がり、中央部を南北に県道63号(大磯・相模原線)が通り、住宅街の中に愛名老人憩の家(厚木市第1号)、諏訪神社、妙昌寺、愛名学園等が点在しており、静かで緑豊かな環境に恵まれています。

我が自治会は、現在・会員数も995世帯余りの大所帯で構成され、自治会活動も地域の伝統行事、高齢者福祉への援助活動、各種団体や隣接するグリーンハイツ愛名自治会(以下、両者を協力団体という)との協働による地域コミュニティケーション活動等を実施し、地域社会や地域住民との交流・触れ合いを図っています。

特に会員相互の親睦及び地域内外との交流を図るため、毎年開催する「愛名ふれあい祭り」、「愛名盆踊り大会」では、協力団体・組長による模擬店も多数あり、子供達や地域住民にも大変喜ばれ、千人を超す参加者を得て盛大に実施しています。

また老朽化した愛名老人憩の家も、今年隣接地に新しく「愛名いこいの家」



愛名盆踊り大会

としてオープンし、明るく住みよいふるさと「愛名づくり」の再生を目指して、今まで実施してきた役員・組長・協力団体等の協働による防犯パトロール、防犯灯チェック、防災訓練等の活動を活性化させていきます。

今後は、愛名里山緑地の環境保全及び再生整備 環状3号道路整備に伴う諸問題、県道63号線整備に伴う諸問題等の課題が山積されていますが、「旧愛名老人憩の家」跡地の問題を市当局関係者と話し合いながら、「どの様に活用したら有効利用できるのか」に寄与することが住みよい地域環境づくりであり、地域整備の最重要課題と考えております。会員皆様方のご理解とご協力を得て自治会活動に努力したいと思います。

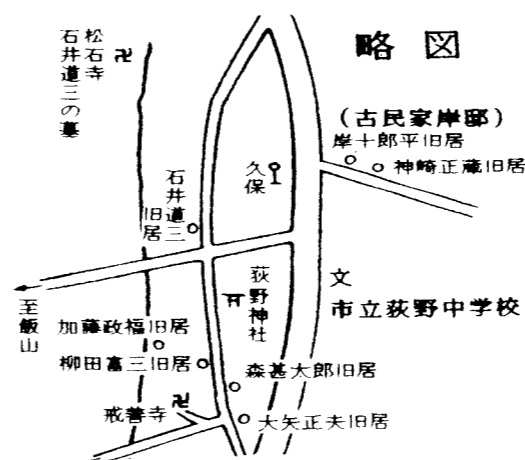
絆を求めて

檜ヶ谷自治会(荻野地区)

会長 神崎 英男

私が最初に自治会長になったのは今から20数年前の昭和50年代後半の頃である。当時私は片道2時間半かけて東京迄通勤するサラリーマンであった。営業担当職として殆んど深夜帰宅という多忙な職務を熟しながら自治会長と荻野自治連の会計という仕事を両立することができたのは二つの要因があったと考える。その一つは当時の自治会長の職務が今程多くはなかったこと。二つめは会員数が約30戸と少ないいうえ殆んどが神崎・岸姓で占められるいわば地縁血縁の集団であったため、集団の絆は強く冠婚葬祭をはじめあらゆる行事は協力し助け合うという風習があり自治会活動にも自然と反映されていたのである。

さて時は流れこの小さな集落にも都市化の波がおしよせ、他地区からの転入が急増している。戦後23世帯の小さな自治会は今や当時の四倍近い76世帯が加入、来年度中に90世帯になることは確実である。自治会員の高齢化により一時期低迷していた自治会の諸活動も新会員の加入により活発になってきた。しかしながら会員の急増は歓迎すべきことではあるが、反面大きな課題がソフト・ハードの両面で顕在化してきた。狭隘化した自治会館、狭い生活道路、公園への違法駐車、ゴミ出しのルール違反、防災体制、規約の陳腐化、組織の硬直化、会員間の交流等々



これらの課題は会員の協力なしでは解決しない。そのため自治会長として先ず第一に会員全員を知ることとして自分を知らせてもらうこと、第二に会員間の友情を深める努力をしたい。自治会の転換期である今こそ求められるのは人間の絆ではないだろうか。

自治会一丸となって

豊田第一自治会(睦合南地区)

会長 大塚 光男

当自治会は国道246号線のバイパスと中津川の間位置しております。近くには桜並木があり、春はお花見、夏は鮎祭りの花火大会で中津川沿いは大勢の人出で賑わいを見せております。

当自治会の主行事として9月に防災訓練があります。毎年数多くの会員の皆様と地震災害等の事態に備え訓練を行っております。ここ最近では訓練への参加者が増加しており、会員の防災への意識の高まりが伺えます。また9月の敬老の日近くになりますと高齢者を対象に「長寿祝い品」を該当者宅に訪問して贈呈しております。年末には地元の睦合東中学校の生徒さんの協力を頂き、会員の皆様と一緒に自治会内の美化清掃を行っています。1月には中津川河川敷において「どんと焼」を実施しております。これら自治会活動を行えるのも会員の皆様のご協力はもちろんの事、各組長さんと役員の方々のご尽力の賜物であり、とても心強く感じしておりますが、当自治会内には広場や公園がなく盆踊り等の行事が行えないのが悩みです。

さて最近の市管内における盗難事件や空巣等が多発している事に対して、



防災訓練の様子

当自治会としても組長、役員会議において注意を喚起するなどして自治会全体で防犯意識を高めていきたいと考えております。

今後につきましても会員の皆様と協力して「安心、安全な地域づくり」に自治会が一丸となって取り組んでいきます。

「小田舎」

戸田下沖自治会(相川地区)

会長 藤 純一

戸田下沖自治会は相川地区の南に位置し、広大な田園風景を望み遠く平塚市の家並みを霞見る、昔と変わらぬ様子を残しています。調整区域ということもあり、厳しい規制がある為、新

宅が増すことはまれで、会員は相川地区(14自治会)内では最も少ない30戸余りで、代々続く家々とその分家等々でほぼ占めています。小さな自治会ですが区域内には氏神様が祭られている御霊神社、先祖が眠る善養院、今年20周年を迎えた戸田小学校、自治会活動にご理解を頂きご協力を下さる企業があります。脇に幹線道路の国道129号線が通り、それを貫く横浜-伊勢原街道として東名高速厚木インターまで2kmという生活利便の良い「小田舎」といったところでしょうか。近い将来には第二東名高速道路の開通、さがみ縦貫道路の開通と近隣では大きな変貌となる道路工事が現在進行中です。

自治会活動においては小さい自治会ならではの結束力で年間を通して遂行することができていると思えます。

なかでも資源回収に到っては回収率が高く地区内でも優秀な自治会と賞されています。その要因の一つとして全世帯参加の廻り当番制で資源日に立ち会い携わる事で個人の意識も高まり、結果効を奏していると考えます。またこの度「平成21年度新システム全市実施前モデル地区」として玉川地区、森の里地区、そして相川地区の三地区が選考されました。今年10月6日から実施となり、資源回収品の追加ほか資源とごみの回収回数や出し方などが変更となります。モデル地区内の一自治会として、厚木市が目指す「循環型社会」の形成に貢献をし、資源化率を高められるよう全世帯の協力を仰ぎ更なる意識を強めて前向きに活動して行きたいと思っております。

今世、少子高齢化は社会問題になっていますが、加えて世代交流も薄らいではないでしょうか。人と触れあい語りあい、人を思いやり助けあう、そんな自然な姿が作れなくなっているような気がします。自治会の在り方は、そんな世を変えてゆく一つの場であると改めて思い考えさせられます。

現代社会の環境のなかで共有する難しさは有りますが、自治会として人々に耳を傾けながら題材を提供し、参加する意欲がもてる活動であり、意義のある活動に繋がるように心がけて努力して参りたいと思えます。また他自治会との連携を密にし親睦を深めて相互の協力のもと、地域の発展の為に微力ながら努力して参りたいと思っております。



平塚市方面から望む戸田下沖自治会の広大な田園風景